

勝田守一 かつた まもる 教育學者。明治四十一年十一月十日東京生れ。昭和四十一年七月二十日歿（一九八一六）。昭和七年京都帝國大學文學部哲  
學科卒。松本高等學校、學務院大學、東京大學各教授歴任。

譯著書、シンメル著『哲學の根本問題』（玉井茂共譯、昭和十二年五月一日岩波書店「岩波文庫」）、『教育を守るため』（合著・關口  
泰編、昭和二十九年二月、二十八日柏林書房）、『教育學』（編、昭和  
二十一年十一月十四日岩波書店「岩波小辭典」）、シエリング著『學  
問論』（昭和二十一年一月、二十五日岩波書店「岩波文庫」）、『人文  
科學の名著』（合著・淡野安太郎編、昭和二十一年三月二十五日毎日  
新聞社「毎日ライブラリー」）、『日本のあけぼの―建國と記念をの  
ぐつこ』（合著・ニ堂宮原に編、昭和二十四年二月五日光文社「サツ  
パ・ブックス」）、『戦後教員物語』（共編、エ・昭和二十五年五月  
二十一日、Ⅱ・六月二十一日、Ⅲ・八月十日、ニ書房「ニニ新書」）、  
『日本の学校』（中内敏夫共著、昭和二十九年六月二十七日岩波書店  
「岩波新書」）、『教育とはなにか』（昭和四十一年一月十九日岩波  
書店「家庭の教育」）、『幼年期』（共著、昭和四十一年二月十九日  
岩波書店「家庭の教育」）、『少年期』（共著、昭和四十一年二月十  
九日岩波書店「家庭の教育」）、『青年期』（共著、昭和四十一年二月十  
九日岩波書店「家庭の教育」）、『教育と教育學』（昭和四十五年  
七月十五日岩波書店）等。